

# 行政視察報告書

行政視察の結果について、下記のとおり報告します。

令和6年2月9日

光市議会議長 木村信秀様

光市議会会派一光会

代表者 大田敏司

議員 西崎孝一

## 記

- 1 視察日時 令和6年1月16日（火）～1月18日（木）
- 2 視察場所  
(1) 茨城県東海村（東海第2発電所内使用済燃料貯蔵建屋等）  
(2) 茨城県日立市
- 3 調査結果 別紙のとおり

# 行政視察調査結果

調査日時	令和 6 年 1 月 17 日 (木) 9 時 30 分～12 時
場 所	東海第 2 発電所 (茨城県東海村)
調査事項	使用済燃料貯蔵建屋の現地視察等
説 明	日本原子力発電株式会社 東海事業本部

## 1 視察概要

- 乾式貯蔵施設は、同一敷地内の原子炉から 100m しか離れていない。キャスクは、建物に入る外気だけで冷却。
- 発電に使った核燃料を 7 年間原子炉建屋内のプールで冷やし、放射線が下がってからキャスクに入れている。
- 最も古いもので 22 年間置かれている。
- 建物の周りは、高潮に備えて高さ 20m の壁で囲む工事が進む。工費は約 2,500 億円。
- 地震時の転倒防止策として、基礎部を 4 カ所固定している。
- 乾式貯蔵施設の建設は、国の許可だけで地元自治体に同意を求める法的な定めはない。



## 2 所感

### 【大田 敏司】

東海村にある日本原子力発電東海第 2 原発の敷地にある乾式貯蔵施設を訪れ、安全性などを視察しました。乾式貯蔵施設は、原子炉建屋から約 100m 離れている同一敷地内に建設されている鉄筋コンクリート造の建屋で、高さ 54m 幅 26m。建屋内には防護服なしで入れました。建物内には、キャスクと呼ばれている高さ 5.7m 直径 2.4m の金属製の容器が 15 基並んでおりました。使用済核燃料が入り、二重ふたで覆われており、建屋に入る外気だけで冷やしておりました。約 30～40 分位滞在しておりましたが、放射線量は、0.0003m と低く、自然界の被ばく線量よりも低かったようです。又、耐震性においてキャスクは平成 23 年の東日本大震災でも異常はなかったと言われておりました。

しかし、未だに最終処理施設が出来ていない為に、中間貯蔵施設に 40～50 年仮置きした後の処分場がまだ完成をしていないために、もう少し政府に、延伸をお願いしなければならない様にお聞きしております。

運搬にも心配があるのかもしれませんが、十分に安全を確保してほしいと思われれます。

### 【西崎 孝一】

- 原発のない上関町に遠く関西電力の使用済核燃料を運搬するのは、いかがか。
- その点周辺住民に中電は、安全性について説明すべきである。
- 最終処分場への搬入のめどが立っていないことも問題。
- また、乾式貯蔵施設の建設には、国の許可が必要だが地元自治体の同意は法的に不要である。

# 行政視察調査結果

調査日時	令和 6 年 1 月 17 日 (木) 14 時～16 時
場 所	日立市役所 (茨城県日立市)
調査事項	【日立市の公共交通について】 (1) 乗合タクシー「みなみ号について」 (2) AI デマンド乗合タクシーの実証実験について
説 明	日立市都市建設部都市政策課

## 1 視察概要

- 日立市の人口は、約 168,000 人。
- 平成 15 年から人口が減少し路線バスの利用者が減少。このため、AI デマンド交通、地域モビリティの導入をしたが利用者は、思うように伸びていない。
- 地域負担金があることが特徴。
- 利用車両は、10 人乗りのワンボックスカーで、地元のタクシー会社が入札で受けている。



## 2 所感

中里地区は市中心部より離れており、地域住民と負担を分かち合いながら移動手段の確保を目的とし、地域運営組織への支援をされ、「NPO 法人助け合い なかさ」とが運行業務を担い、デマンド方式（事前予約）採用とされ、自家用車有償運送・交通空白地有償運送をされておられます。経費については、利用者から徴収する運賃に加え、地域負担金として 1 世帯当たり年額 1,500 円、市補助金が約 200 万円、国補助金約 200 万円を受け運航をされており、住民の足として活動をされておられます。

光市もデマンド交通を実験的にされておりますが、早期に実用型にしてほしいと願っております。